

本学志願 1万5千人超す

NEWS CIT

2014
2.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

2面 中村研究室の3人、年賀状閲覧アプリ更新/よさこい「風神」全国3位/森田君が学生懸賞論文で連覇/山崎直子さんが特別講演

3面 下川君に「粋バッジ」/ロボット技術者育成カリキュラム/「瓦礫の下からの救助」吉村准教授をテレビが特集

4面 松山君・宇井さんらモーションセンサーをリハビリに/チバニーお菓子で受験生応援

平成25年度 学位記授与式



平成25年度の学位記授与式は、3月22日(土)午後2時から、幕張メッセ・イベントホールで挙行されます。入場受付は、学生・父母とも1時半から開始します。開式(2時)以降の入退場はできません。なお、学生は当日「学生証」を必ず持参してください。

ベトナム2校と協定

海外交流 8カ国・地域14大学に協定校

工科大での締結式で、昨年7月5日、台湾の国立台北科技大学と交流協定を締結しており、本学の海外交流協定校はこれで8カ国・地域14大学になった。今年度内に米グアム大学との協定締結も予定している。

海外の大学と、研究者・学生を交換するなどさまざまな交流することによって、本学のグローバル化の進展が期待される。

センター利用入試



試験会場を開始を待つ受験生たち

平成26年度の千葉工業大学一般入試試験が、1月18、19日の土・日曜日、大学入試センター試験を皮切りにスタートした。試験会場に充てられた本学では、受験生1830人を受け入れた。今年のセンター試験の志願者数は全国で約56万人。本学センター利用入試(前期)の志願者は1万5242人で、昨年を2147人上回り、センター利用入試では4年連続で過去最多の志願者数を更新した。

から4日間、A日程入試試験が本学試験場と13の外試験場(1月31日、2月1日)で実施された。昨年試験場だった金沢会場は、今年は富山会場に変更された。4日間とも好天に恵まれたが、初日、東武線で起きた人身事故の影響で、埼玉東大宮会場は試験時間を1時間繰り下げた。群馬県高崎会場と津田沼校舎でも、遅れた受験生を別室に移し、試験時間を繰り下げた。そのほか大きなトラブルはなかった。

女子増加 A日程も1万3千人台

A日程の志願者数は1万3286人で昨年を2131人上回り、6年連続で増加。両試験とも今年女子受験生の伸び率が著しかった。増加要因には▽景気回復の兆しがあるとはいえないが、就職事情の依然厳しい状況で、リケ女・人気▽本学施設環境の充実▽東京スカイツリータウンキャンパスからの発信効果▽災害・介護ロボット活躍の事実が認められたこと▽女子学生獲得を意識した広報展開などが挙げられる。

平成26年度 入学試験学科別志願者数

	工学部						情報科学部		社会システム科学部			合計
	機械サイエンス学科	電気電子情報工学科	生命環境科学科	建築都市環境科学科	デザイン科学科	未来ロボティクス学科	情報工学科	情報ネットワーク科学科	経営情報科学科	プロジェクトマネジメント科学科	金融・経営リスク科学科	
センター利用入試(前期)												
志願者数	2,189	2,166	1,371	1,570	1,161	1,654	1,843	1,405	750	603	530	15,242
昨年度志願者数	1,907	1,927	1,152	1,327	997	1,438	1,516	1,288	616	491	436	13,095
A日程入試												
志願者数	1,830	1,876	1,157	1,246	998	1,450	1,578	1,328	677	615	531	13,286
昨年度志願者数	1,622	1,667	912	1,016	767	1,250	1,344	1,159	553	468	397	11,155



理事長賞に森君、学長賞劉君

千種寮生 活躍した17人表彰

平成25年度千種寮生表彰式は1月23日、同寮で行われ、別項のとおり17人が受賞した。理事長賞 善君が選ばれた。

賞は毎年、大学と寮の運営や、クラブ活動で活躍し、学業成績も優秀な4年生に贈られる。受賞者を代表して森君が謝辞を述べ、写真、全員で寮歌「逍遙」を歌った。

今、この瞬間、この場に立ち、表彰され、謝辞を述べる(ことなど)、全く想像していません。

新しい生活に期待を抱き、千種寮へ入寮して4年。当初は寮生活も、大學生生活も、不安なことが多かった。そんな私たちに手を差し延べ、助けてくれた先輩方の姿は今でも強く印象に残っています。

森 大樹

今後の活躍期待

千種寮生表彰式で、森大樹君(電気電子情報工学科)と劉善君(未来ロボティクス学科)が表彰された。

千種寮理事長賞 森大樹(電気電子情報工学科) 劉善(未来ロボティクス学科) 黒竜江(情報ネットワーク科学科) 福本卓(情報ネットワーク科学科) 鳥取(大滝豊(建築都市環境科学科) 新瀧) 木下喜貴(生命環境科学科) 静岡(恩田宏樹(生命環境科学科) 新瀧) 菊池勇気(未来ロボティクス学科) 岩手) 高橋大(英城)

今年1年間を振り返ると、運動会や千種寮祭が大いに盛り上がり、最後の年として楽しい思い出がたくさん出来ました。これも皆が一つの目標に向かって企画や準備を頑張ってくれたからこそだと思います。後輩たちにも感謝し、今後の活躍を期待しています。

最後に、学長をはじめ大学関係者の方々、学寮委員会の先生方、千種寮事務課の皆様へ感謝を申し上げます。

環境の充実▽東京スカイツリータウンキャンパスからの発信効果▽災害・介護ロボット活躍の事実が認められたこと▽女子学生獲得を意識した広報展開などが挙げられる。

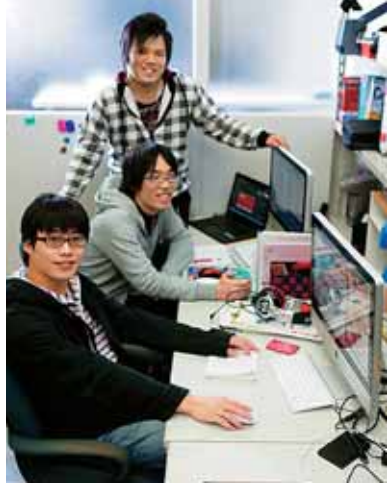
千種寮理事長賞 森大樹(電気電子情報工学科) 劉善(未来ロボティクス学科) 黒竜江(情報ネットワーク科学科) 福本卓(情報ネットワーク科学科) 鳥取(大滝豊(建築都市環境科学科) 新瀧) 木下喜貴(生命環境科学科) 静岡(恩田宏樹(生命環境科学科) 新瀧) 菊池勇気(未来ロボティクス学科) 岩手) 高橋大(英城)

千種寮理事長賞 森大樹(電気電子情報工学科) 劉善(未来ロボティクス学科) 黒竜江(情報ネットワーク科学科) 福本卓(情報ネットワーク科学科) 鳥取(大滝豊(建築都市環境科学科) 新瀧) 木下喜貴(生命環境科学科) 静岡(恩田宏樹(生命環境科学科) 新瀧) 菊池勇気(未来ロボティクス学科) 岩手) 高橋大(英城)

千種寮理事長賞 森大樹(電気電子情報工学科) 劉善(未来ロボティクス学科) 黒竜江(情報ネットワーク科学科) 福本卓(情報ネットワーク科学科) 鳥取(大滝豊(建築都市環境科学科) 新瀧) 木下喜貴(生命環境科学科) 静岡(恩田宏樹(生命環境科学科) 新瀧) 菊池勇気(未来ロボティクス学科) 岩手) 高橋大(英城)

Yahoo! JAPAN年賀状 閲覧アプリを更新

中村研究室 朝日田さんら3人



閲覧アプリを制作した(手前から)関口君、朝日田さん、内田君

東日本大震災チャリティ企画「Yahoo! JAPAN年賀状 学生デザインコンテスト」閲覧投票アプリの2014年バージョンを、情報ネットワーク学科・中村直人研究室の朝日田卓哉さん(情報科学専攻修士2年)、関口紘明君、内田博之君(ともに情報ネットワーク学科3年)の3人が制作した。

「Yahoo! JAPAN年賀状」はアプリをダウンロードしてお年玉付き年賀状の作成・印刷・投函ができるサービス。サイト上で全国のデザイン系学生が年賀状を競作し、閲覧者が気に入った作品をスマートフォンやタブレットで投票し

コンテストを行う。2013年用「初代」閲覧投票アプリは昨年度、中村研究室の院生とデザイン科学科・長尾徹研究室の院生たちが協力して開発し、1カ月で約5000ダウンロードされる人気アプリになった。今年度用への更新を、朝日田さんと中村研究室の後輩が受け継いだ。

3人で変更点や設計日程を練り上げ、デザインを進めた。スマホ普及に合わせiOS7対応にした。完成画面が動くのを見て「やった!」と達成感に包まれたという。

新作アプリは初代の「つながり」連続模様のコンセプトを受け継ぎながら、2014年午年のイメージに合うようデザインを刷新した。応募作全206点を閲覧でき

る。内田君は「社会人とも刺を交わすビジネスに緊張しました。勉強したこ

とが実社会で役立つと実感しました」と感想。コンテストの得票上位100作品は昨年度同様、テンプレートとしてアプリ上で販売し、売上金の一部が大震災復興支援に寄付された。

森田君が「連覇」 学生懸賞論文 最優秀賞

創立70周年を記念し昨年度始まった本学図書館(館長 岡本良夫・電気電子情報工学科教授)の学生懸賞論文募集が、今年度も実施された。

【A部門】世界文化に技術で貢献するために私

ができること【B部門】図書館所蔵図書を読んだ感想文—のどちらかにして募集。16点の応募があり、選考の結果、最優秀賞にB部門・森田洋介君(プロシエクトマネジメント学科4年)の「フェイクブック 若き天才の野望(デビッド・カークパトリック著)」、優秀賞にはA部門11高木俊太君(電気電子情報工学科4年)の「君の心に炎はあるか」、B部門11村越真理子さん(情報ネットワーク学科3年)の「新しい文学のた



小宮学長と受賞者たち

1次審査で5点に絞り、小宮一仁学長と岡本館長ら10委員が審査して受賞作を決めた。

森田君は昨年、米アップル社創設・ステイブ・ジョブズを描いた著作の感想文で受賞。今年もIT業界から、フェイスブック創業者で映画化もされたマーク・ザッカーバークを描いた作品に挑

よさこい「風神」全国3位



各地の大会で活躍

本学「よさこいソラ風神」チーム(主将 10人)が、10月参加予定の2大会が悪天候で中止になったが、11月2、3日「ドリム夜さ来い祭り」(ドリム・オブ・ザ・イヤープロンズ賞)に初参加で堂々の3位入賞を果たした。

チームは、昨年から9月8日「大江戸ソラン祭り」(宮本毅賞)▽同14日「YOSAKOI Iかまがや」(優秀賞)▽同29日「ひまわりフェ

クにも遠征している。都内・お台場周辺の7会場で2日間開かれ「風神」が見事銅賞を獲得した。

大賞を得た「ひまわりフェスティバル」は蘇我市で主に県内チームが参加する大会。今回から審査・順位づけを開始。踊り子人数の差をなくし評価を均一に、と各チーム20人に限る「C20」と呼ばれる。初審査で1位になった。

チームの標語は、一丸となって1位を目指そうと「一」。踊りは不死鳥を表現した「焰」。限ら

号館3階大教室には、宇宙に関心をもつ中・高校生やその父母と先生、本学と他大生学生など約150人が詰め掛けた。

講座を指導するPERC(惑星探査研究センター)の秋山演亮客員上席研究員に紹介されて登壇した山崎さんは、ソ連当時のユリー・ガガーリン少佐による人類初の宇宙飛行(1961年)から話し始め、地上10

ロケットガール&ボーイ養成講座

「宇宙はワンダー、フル」

飛行士 山崎直子さんが特別講演



2013年首都圏版ロケットガール&ボーイ養成講座は、全長約2日、重量約10kg、液体の触媒と個体の燃料を組み合わせて高度約3500mまで飛ばすハイリッドロケットを、設計・製作から打ち上げまですべて高校生が行うもの。本学のホームページなどでの呼びかけに応募した千葉や東京、埼玉、茨城などの高校生18人男子11人、女子7人が参加している。

高校生たちは1月11日から3月15日まで2カ月余りをかけて、ロケットに関する知識や製作技術

えと体験を盛り込んだ。ザッカーバークがオーブンな世界を望み「人と人をつなげたい」と純粋な理由で会社を立ち上げたからこそ大きく育った点を述べたかったという「2年連続で選んでいただき光栄です」。

優秀賞の高木君は「書かなければ、と不思議な使命感がありました」。村越さんは「本から得た考えを普段の自分に生かせないかという視点で書きました」と語った。

1次審査を通った他の2点(佳作)は次のとお

り。▽A部門「世界文化に技術で貢献するため私にできること」佐藤彩さん(デザイン科学科2年)▽B部門「小が大を超えるマーケティングの法則(岩崎邦彦著)」松崎寛之君(プロジェクトマネジメント学科3年)

(未知)がフル(満ちあふれた)な素晴らしい世界です」と講演を締めくくった。

山崎さんの講演に先立ちて登壇したPERCの松井孝典所長は、今年12月に打ち上げ予定の小惑星探査機「はやぶさ2」に搭載する観測機器などの研究開発にPERCが関わっていると、1人でも多くの中・高校生が「ロケットガール&ボーイ養成講座」に関心をもって、理数系の勉強の楽しさを実感してくれたらうれしいと話しかけた。

高校生ロケット打ち上げ 本学主催 3月に

などを修得し、3月21、23日の間に伊豆大島にある射場で自分たちの手で打ち上げを目指す。

この経験を通して、学校の授業では習わない「チームで仕事を成し遂げる」「自分たちの力でやり方を考え、工夫する」ことの大切さを学び、科学や工学への興味や関心を喚起することが目的。

講座の運営には、本学学生8人を含む首都圏の大学生約30人がTA(ティーチングアシスタント)として参加し、高校生たちを支援している。

モーションセンサーで介護を助けリハビリも



体験会で。センサーに手をかざすと障子にアートが——説明する松山君

松山君、宇井さんら製品化めざす



モーションセンサーに手をかざし映像を投影するプロジェクトは、昨年4年と、介護現場での排せつ検知シートを事業化した株式会社aba代表取締役・宇井吉美さんが中心、「Digital Art Therapy」モーションセンサー」と名付け

たりハビリステムの製品化を目指している。昨年末には体験会を開いて、お年寄りたちを喜ばせ、実現の感触を得た。仕組みは、センサーが手の動きを読み取り、動かすスピードや手を回す角度で、室内の壁や天井に、自分だけのアート、をあふれさせる。ディスプレイの動きを、センサーが読み取り、動かすスピードや手を回す角度で、室内の壁や天井に、自分だけのアート、をあふれさせる。

「誰でも簡単に遊べるアート」——2人の思いが結びついて、プロジェクトが始動した。昨年12月20日、(株)日本介護福祉グループの協力を得て、津田沼の「茶話本舗(デイサービス喜楽々)」でクリスマス会&体験会を開いた。お年寄りたちが集まった部屋の椅子にセンサーをセット。クリスマスツリーに星を描く▽富士山を描き、個々に印刷してオリジナル年賀状をつくる▽自由にアートを描く——の3つを試した。手を動かすと、部屋の障子にクリスマスツリーや流れ星、自分流になぞった富士山が変化する。センサーからかなり離れて手を動かしても描ける。ディスプレイのお年寄りたちは、初め手さぐり

だったが、やがて「きれい!」「あれは○○さんが描いているんだよ」と、手や腰を回しながら笑い、歓声を上げ楽しそう。歌いながら描く人もいた。松山君と宇井さんらは、アートの性のあるシステムづくりを進めながら、リハビリ機器としての効果の実証実験を続けている。一方で、ウェブサイトに製作販売費用を調達できるガジェットバンクを開発し、プロジェクトに賛同者を募っている。賛同者にはデジタルコンテ

ンツセットやステッカー、クリアファイルなどを提供。集まった資金を介護施設でのイベント開催やリハビリ実証実験、製品化などに使う。現在、介護施設では、介護士が、リハビリをどうアートの性のあるシステムで進められるか知恵を絞っているという。大掛かりなリハビリ機器・用具が要らず、大勢が同時に楽しめる松山君・宇井さんらの「Digital Art Therapy」は、成功すれば国内外のリハビリ風景を変える可能性がある。

チバニーも応援!!

キットカットとコラボ

「きっと勝つ」で受験生に人気のお菓子「キットカット」。販売元の「ネスレ日本」(神戸市)が平成15年から受験生応援

キャンペーンを展開しているが、今年も全国15大学のキャラクターと連携。本学の受験生応援大使「チバニー」もその中

に選ばれた。11月6日に決起集会をした後、12月16日、成蹊大学大講堂にシンガー・ソングライターmivawさん(応援ソングを担当)を招き大学キャラクターたちが集合。集まった受験生らを励ました。

受験生たちはライブを楽しみ、併設された15大学のブースを回って、入学案内をもらい、職員から説明を聞いて情報を集めていた。チバニーは、縁起の良い紅白組み合わせで受験生を応援する「キットカットミニ紅白パック」のパッケージデザインにも登場、現在発売中。

り、東京タワーもサクラ色にライトアップして受験生を応援した。チバニーは、縁起の良い紅白組み合わせで受験生を応援する「キットカットミニ紅白パック」のパッケージデザインにも登場、現在発売中。



東京タワーで受験生を応援



チバニーの紅白パック

▲にぎわう本学ブース

クラブの活動状況

文化会		期間	大会・発表会名
陶芸研究会	12/6~8	学陶展	
フィッシャークラブ	12/1	エリアトラウト大会	
フォークソング研究会	12/4	第43回定期演奏会	
吹奏楽部	12/8	第39回アンサンブルコンテスト	
天文研究部	12/13、14	天体観測	
動画制作部	12/15	第66回合同自主上映会	
吹奏楽部	12/27	第24回定期演奏会	
	1/25	第19回アンサンブルコンテスト	
	12/22	二足歩行ロボット操縦体験	
総合工学研究会	1/19	ROBOT JAPAN 7th	

体育会		期間	大会・発表会名
空手道	12/1	第47回市民総合体育大会 個人 優勝	
バドミントン	11/17~12/15	千葉県学生春季リーグ戦(男子)、千葉県学生春季リーグ戦(女子) Cリーグ1位優勝、千葉県学生春季選手大会	

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。今後、定期的にいろいろなクラブの活動状況をお知らせしますので、学生たちのがんばりにご期待ください。

同窓会



2月8日(土)に千種寮創立50周年記念行事が執り行われる。寮生ではなかった方も、学寮委員を仰せつかった関係で招待を受けている。当方の学生時代には、今とは異なり、北海道、静岡、九州を筆頭にたくさんの方出身者が在籍していた。当然、友

人や研究室にも同様に地方出身者が比較的多く、就職などで日本中に散らばっていった。サラリーマン時代に地方に出張した際に、夜、気分よく町中を歩いていたら道端で大学時代の友人に遭遇したこともあった。また、教員になってからは、学寮委員を務めさせて頂いていた関係で、寮生が研究室に配属されることが多々あった。噂によれば、50周年記念行事には既に250名を超

四季雑感



地方出身の学生なら体感していることだろうが、同じ列島とはいっても内実は多様。最初のころはいちいち困惑したはずだ。であれば、予定の隙間があると欧州各地を歩きまわる筆者に、いちばんよかった「国」はどこかと問う前に立ち止まってみよう。

東京が日本のすべてではないようにパリがフランスの、マドリッドがスペインのすべてではない。先日、カステイリャ語とカタルニア語とオック語とフランス語が混線する地域を旅して(さあどのあたりでしょう?)、自分は現地の人とイングリッシュ語およびフランス語で話していた。ほら外国は面倒だなどと思わないでほしい。当然だって実は似たような

編集だより



昨年のこの時期、毎日のようにテレビで耳にした「大寒波」。今年は「爆弾低気圧」が名乗りを上げ、西日本から東日本の広い範囲で雪が降り、8日、都内でも大雪警報が出された。同日、津田沼キャンパスでは千種寮創立50周年

中、来学する同窓生の皆さんを安全に迎え入れるため、男性職員らが総出で雪かきをする姿は事務室から見ている感動ものだった。歳を重ねてなお、仲間と楽しむ「青春」があることをうらやましく思う。はた迷惑な大雪が、本日の祝賀会を忘れられない思い出にしたことは間違いない。 入試広報課 大橋 慶子